



前例のない冷暖房を大型施設に導入し国内トップレベルのスポーツ大会を誘致

2013年、宇土市が運営する体育館の大規模改修が行われた。なかでも注目されたのは、輻射式の冷暖房設備の導入。公共施設では従来、対流式設備が常識だったからだ。輻射式設備の導入に踏み切った理由、前例主義を乗り越えた方法、導入後の成果などについて、同市の元松市長に聞いた。



宇土市長
元松 茂樹
もとまつ しげき

1965年、熊本県生まれ。1987年に熊本商科大学（現：熊本学園大学）商学部を卒業後、民間企業に就職。1991年に宇土市に入庁。教育委員会や総務課などで19年間勤務した後、市長選挙に出馬。2010年に初当選。2014年、再選。



導入・運用コストとも想定以上の削減に成功

—2013年に宇土市民体育館を改修したそうですね。それ以前にはどのような課題がありましたか。

いちばんの課題は、十分な冷暖房設備がなかったことです。

1990年頃までは、バレーボールの日本リーグをはじめ、国内トップレベルの試合が開催されていました。しかし、猛暑続きの近年は冷暖房完備の他施設に奪われてしまったのです。

また、宇土市は小中学校のスポー

ツが盛んで、卓球や相撲など全国レベルの大会で優秀な成績をおさめてきました。しかし、夏場に市民体育館が使えず、練習や試合に支障をきたしていました。

これらの課題を解決するため、冷暖房設備を充実させる2013年夏の大規模改修を決定したのです。

—改修にあたって、冷暖房設備を選定した基準を教えてください。

1つめの基準は、経費の削減です。今回、改修予算5億円のうち冷暖房設備に予定していたのは3億円。ところが、輻射式冷暖房であれば、1億7000万円ですみ、

1億3000万の節約になります。運用コストも対流式の冷暖房に比べ約6割の削減が可能で、どの方式よりも安いと見込まれました。

そして2つめとして、風が起きないことと、静粛性を重視しました。なぜなら、卓球やバドミントンなど、風の影響を受けやすい室内競技を楽しむんでもらいたいからです。

3つめは、できるだけ県内企業に設備を発注することです。探した結果、熊本市のエコファクトリーの輻射式冷暖房「エコウイン」にたどり着きました。

ただし、「輻射式冷暖房は、始動から適温に達するまで時間を要する短所がある」といわれていたため、導入に消極的な意見もあったのです。

プロバスケットの公式戦の開催会場に指定される

—反対者に対し、どのように説得しましたか。

自身の政治理念を前面に出しました。

市議や職員に普段から「市民のためになることなんでもやる」と伝えてきました。今回の冷暖房についても、「利用者にメリットがある設備であれば、課題は私たちが解決

して、ぜひ導入を実現しよう」と訴えたんです。

当初は懐疑的だった職員なども、最後は輻射式のメリットを認め、賛成してくれました。

—輻射式冷暖房導入の効果はどうですか。

体育館の使用料金を一時間当たり2000円という低額に設定できました。従来の対流式エアコンなら5000円、他の同規模の施設でも1万円以上に設定している例もあり、その大半を電気料金が占めます。結果として、月間の平均利用者数は改修前の3400人から5300人に急増。施設の稼働率が一気に高まったのです。耐震補強、照明のLED化も評価され、宇土市民体育館が見直されています。来年度にはプロバスケットの公式戦が開催される見通しですが、これは輻射式冷暖房の導入によるところが大きいと思います。

輻射式冷暖房の短所であるリード

タイムの長さについても、実際に運用してみると問題にはなりません。エコウインは媒体の熱容量が約4分の1と少ないため、始動から約15分で適温に達するからです。

—今後の冷暖房設備導入の方針について聞かせてください。



県下有数のアジサイの名所としても有名な住吉自然公園



約二千本の桜がある立岡自然公園では毎年「うと花園さくらまつり」が開催される



干潮時、干潟に美しい砂紋が現れる御輿来（おこしき）海岸

【宇土市】
 ■人口：37,953人（平成26年8月末現在）
 ■世帯数：14,583世帯（平成26年8月末現在）
 ■予算規模：149億2,746万円（平成25年度最終）
 ■面積：74.20km²
 ■概要：熊本県の中西部、宇土半島の北部に位置。中世から有力者が支配権をめぐって争った交通の要衝。戦国時代に小西行長の居城として発展した。江戸期には細川藩の領地として有明海での養蚕業がはじまり、人口が増加。近年はオレンジ・デコボン・アンデスメロンなどの果樹栽培が盛んで、養蚕ノリやアサリも特産品。